

会報 栄養日本・礎

いしずえ

目次

会務報告	1
職域事業部のページ	3

会務報告

平成 28 年 1 月度 理事会開催報告

日時 平成 28 年 1 月 23 日(土)15:00~19:00

1 月 24 日(日) 9:00~14:35

場所 日本栄養士会・会議室

現在理事数 24 名

出席理事数 1/23 : 23 名 1/24 : 22 名

議決事項

第 1 号議案 管理栄養士・栄養士の将来像の実現について (理論形成について)

理論形成の討議をするにあたり 3 つの論点についての説明があり、厚生法制研究会代表より資料に基づいて理論形成の説明および提案があった。論点について、引き続き協議することとした。

第 2 号議案 平成 27 年度事業執行状況について

- ・ 未執行事業への対応

未執行の事業については、速やかに執行する。栄養ケアプロセスの体制整備についての委員会を立ち上げることとし、職域事業部から委員を選出するよう依頼した。

- ・ 上半期監査報告

国の補助事業等の精算処理は年度内に終了させるよう指摘があり、徹底することとした。

第 3 号議案 生涯教育等の推進について

- ・ 認定管理栄養士・認定栄養士制度

認定管理栄養士並びに認定栄養士の制度に関する規則について、承認された。

- ・ 特定分野認定制度

生涯教育制度イメージ図の一部変更が、承認された。

・ 人材育成ガイド (仮称) 公衆衛生分野における人事育成の考え方

本ガイドは全国研修会での意見等も反映してほぼ最終版となっており、今年度のリーダー研修会で、説明を行い使用を開始する予定との説明があった。

第 4 号議案 平成 28 年度事業計画の概要について

資料に基づき説明があった。

第 5 号議案 世論形成実現におけるメディア戦略について

資料に基づき説明があり、承認された。

ホームページリニューアルにあたり、職域事業部ごとのページを作成して欲しいとの希望が上がり、今後検討していくこととした。

第 6 号議案 平成 28 年度政策経費について

現在総務部に医療事業部から全国の栄養部門実態調査の希望が出ており、平成 30 年の診療報酬・

介護報酬同時改正に向けて、平成 28 年度に調査研究を行い、準備をしていく旨の説明があり、承認された。

第 7 号議案 平成 28 年度定時総会の概要について
6 月 26 日 (日)・27 日 (月) の 2 日間、東京ビッグサイトにて開催する。

第 8 号議案 役員改選について

資料に基づき説明がなされ、承認された。

第 9 号議案 平成 28 年度全国栄養士大会の概要について

10 月 23 日 (日)・24 日 (月) の 2 日間、兵庫県神戸市 (神戸ポートピアホテル周辺のコンベンション会場) にて開催することで承認された。1 日は研修会の開催とし、もう 1 日は全国栄養改善大会・全国栄養士大会を開催する予定とした。基本研修を主で行ってほしいとの希望があり、検討する予定。

第 10 号議案 平成 30 年度診療報酬・介護報酬の同時改定等への対応について

資料に基づき説明があり、承認された。

地域包括ケアシステムについても、各地域での情報収集・調査を行い、平成 29 年 1 月・2 月には要望をまとめられるようスケジュール調整を行っていく。

第 11 号議案 地域包括ケアシステムについて

資料に基づきアンケート結果等の説明があった。

第 12 号議案 平成 28 年度収入支出予算案について

各職域事業部から提出された「各事業の目標設定について」は、今後も事業の見直しも含め、予算の妥当性や評価の判断材料に使用していく予定である。予算は 1 月 31 日までに再提出することとした。

第 13 号議案 会員増対策について

地区栄養士会長会議の議論を踏まえ、今後対応していくこととした。

第 14 号議案 栄養ケア・ステーション事業の推進について

平成 27 年度の調査結果等については、諮問会議までにまとめて提示することとした。

第 15 号議案 日本栄養士会教育研修センター (仮称) の設置について

現在、人材育成事業部の業務が非常に重く、職域事業部との協働する部分が多いため、本研修センターを作ってはどうかという点から、さらに協議することとした。

第 16 号議案 第 2 回諮問会議の開催について

マイナンバー制度の導入にあたり、各都道府県栄

養士会より問い合わせが多いため説明を行うこととした。

第 17 号議案 諸規程の見直し、制定について

マイナンバー制度導入により、特定個人情報に関する就業規則、特定個人情報基本方針、特定個人情報取り扱いに関する規程の一部変更ならびに制定について承認された。

第 18 号議案 ネパール大地震の救援活動を支援するための寄付について

下浦常務理事より、資料に基づき説明があった。今回集まった支援金は日赤もしくはユニセフ等に寄付することが承認された。

災害関係として、JDA・DAT リーダー・スタッフ育成について、目標 500 名のところ、現在約 330 名の養成にとどまっているが、今後も育成を行っていく。

第 19 号議案 会員の入会申請について

資料に基づき報告があり、承認された。

第 20 号議案 賛助会員の入会申請について

ゼスプリインターナショナルジャパン株式会社、DAS Marketing Services 株式会社、一般社団法人高機能玄米協会の入会について承認された。

報告事項

第 1 号議案 厚生労働省等の受託・補助金事業の執行状況

① 平成 27 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業
管理栄養士専門分野別人材育成事業の資料に基づき腎臓病専門管理栄養士および、がん病態栄養専門管理栄養士についての報告があった。

摂食嚥下専門領域管理栄養士について、説明があった。

② 平成 27 年度老人保健健康増進事業「特別老人ホームにおける管理栄養士の今後のあり方に関する調査研究事業」

資料に基づき、進捗状況について報告があった。

③ 保育所を活用した生活不活発病防止食事受け取りシステム構築事業

資料に基づき、進捗状況について報告があった。

第 2 号議案 政策事業の進捗状況

今年度未執行分については、総務部へ今後のタイムスケジュールを提出することとした。

第 3 号議案 各種委員会・検討会の報告

① 第 3 回総務部会

予算の見直しが必要な各事業部は再度修正後提出をお願いする。

② 第 3 回情報コミュニケーション事業部報告

資料に基づき報告があった。

③ 第 3 回「日本栄養士会雑誌」企画委員会報告書

資料に基づき報告があった。

④ 第 5 回 2020 年東京オリ・パラ支援特別チーム事業運営委員会

資料に基づき報告があった。

⑤ 「食品表示法と栄養表示に関する研修会」開催報告

資料に基づき報告があった。

⑥ 平成 27 年度栄養ケア・ステーション認定制度モデル事業

資料に基づき報告があった。

第 4 号議案 平成 28 年度政府(厚生労働省関連等)予算案

資料に基づき説明があった。

第 5 号議案 全国栄養士養成施設協会との懇親会

資料に基づき説明があった。

第 6 号議案 その他

・国産鶏肉給食利用促進全国協議会より、国産鶏肉を用いた給食献立の調理講習会の案内が届いたので、みえまるにて情報提供を行う。

・栄養の日の制定について、「11 月 23 日」として諮問会議へ提案予定。

・みえる化の一環として管理栄養士・栄養士の業務向上に関する事例等の公募を行うこととした。

・第 63 回日本栄養改善学会学術総会の案内があった。

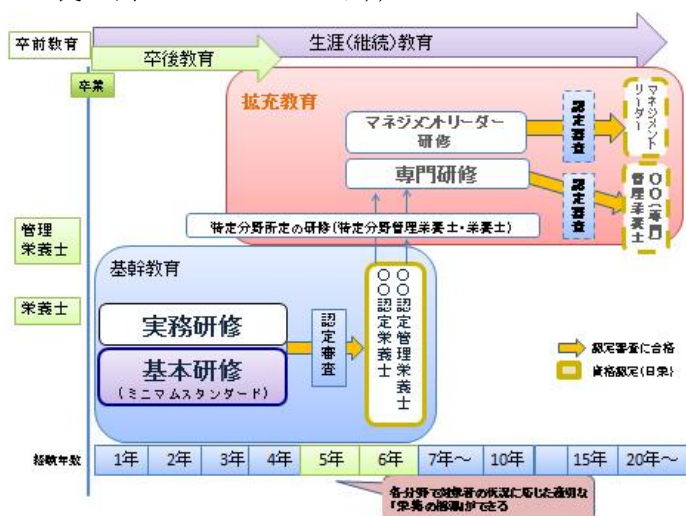
以上をもって、議案の審議等を終了し、14 時 35 分に議長は閉会を宣し、解散した。

医療事業部

生涯教育臨床分野受験のためのガイドブック発刊

【生涯教育について】

平成 26 年 4 月から「生涯学習」が「生涯教育」として開始されたことは皆さんもご存じだと思います。この生涯教育制度は自己評価を行い、到達目標を決定して「研修計画（P）を各自で作成、実践（D）、評価（C）、改善・見直し（A）」の PDCA サイクルでスキルを向上し、「知識・技術・倫理の面で信頼できる専門職」とであると、社会的評価を得られる管理栄養士・栄養士を目指すこと目的にこの制度が動いています。（（公社）日本栄養士会ホームページより）



基幹教育には「基本研修」と「実務研修」とあり、この「実務研修」は専門分野に特化した知識・技術の研修となっており、専門分野（職域）が主体となって実施し、全国研修会では臨床学術セミナー、スキルアップセミナー、食事療法学会がそれに沿った形で企画されています。今後はこの教育を受けた会員の皆さんが試験を受けて臨床栄養認定管理栄養士となっていきます。

【ガイドブック発刊の経緯】

臨床栄養認定管理栄養士の先は拡充教育を受け、〇〇専門管理栄養士（現在では「がん」「CKD」病態栄養専門管理栄養士）となることができますが、この専門管理栄養士制度に関しては日本病態栄養学会と共同認定となっています。またこの専門管理栄養士は日本病態栄養認定管理栄養士（日本病態栄養学会認定）を取得した方も受験することが可能ですので、病態栄養認定管理栄養士と臨床栄養認定管理栄養士が同レベルでなければなりません。さらに専門管理栄養士制度が進むことにより「医療職種」としての専門性が問われることになってくることは間違いありません。また、実務研修は全国研修も実施されておりますが、多く

は各県で実施されており、研修内容に違いが出てくる問題もあります。それに加え臨床栄養認定管理栄養士を取得するためには、受験対策用のガイドブックがあると受験する会員の皆さんが一定のレベルで勉強ができると考えました。

【ガイドブック作成の目的】

上記のことより

1. 受験者の試験対策用
2. 臨床栄養管理栄養士のスキルの担保
3. 全国の実務研修の標準化(テキスト基本として研修の展開)

この大きな3つの柱に加え、

4. 医療機関に従事する栄養士のため バイブルとして

とのコンセプトのものを作成いたしました。

【ガイドブックの内容】

ガイドブックの中身ですが第1章は疾患および疾患別栄養管理として

「肝臓」「胆のう、膵臓」「炎症性腸疾患」「糖尿病」「脂質異常症」「COPD、肺がん、間質性肺炎」「高血圧、虚血性心疾患、心不全」「CKD、透析」「悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群」「高齢者（嚥下障害）」「褥瘡」「小児」「妊娠分娩・産褥」「輸液・電解質」「胃がん」「大腸がん」「がんと代謝と悪液質」「食物アレルギー」の20分野としました。

内容は

- ① 疾患の概説
- ② 診断/治療法
- ③ 病態栄養（生理）
- ④ 身体所見や検査所見
- ⑤ 栄養療法、栄養教育

についてその分野の専門医と管理栄養士とで執筆いただきました。またこのほかに「演習のポイント」について、いくつかの分野では症例を提示して書かれています。

第2章は臨床分野に必要な基礎知識として

- ① 栄養評価
- ② 栄養管理計画書・再評価
- ③ 栄養補給法
- ④ 医療連携
- ⑤ チーム医療
- ⑥ クリティカルパス
- ⑦ 栄養指導（個人）
- ⑧ 栄養指導（集団）
- ⑨ 医療安全管理
- ⑩ 感染管理対策
- ⑪ 食品衛生管理
- ⑫ 災害時緊急対策

⑬ 指導力の育成
を網羅しております。

【認定試験と販売方法】

認定栄養士制度の試験が来年度より開始されます。試験問題は実務研修から 30 問の予定で出題されます。試験問題について、臨床栄養分野に関しては概ね、ガイドブックより出題していきます。全国および各都道府県の研修会にてガイドブックを使用した研修会が展開されていきます。

先だって、第 35 回食事療法学会（愛知県）にて販売されました。

是非、試験対策以外にも普段の実臨床でも役立つ 1 冊となっています。

【ガイドブック】

タイトル

臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック

出版社 東京医学社

監修

鈴木 竜知

（秀和総合病院消化器病センターセンター長）

丸山 道生（田無病院院長）

藤谷 順子

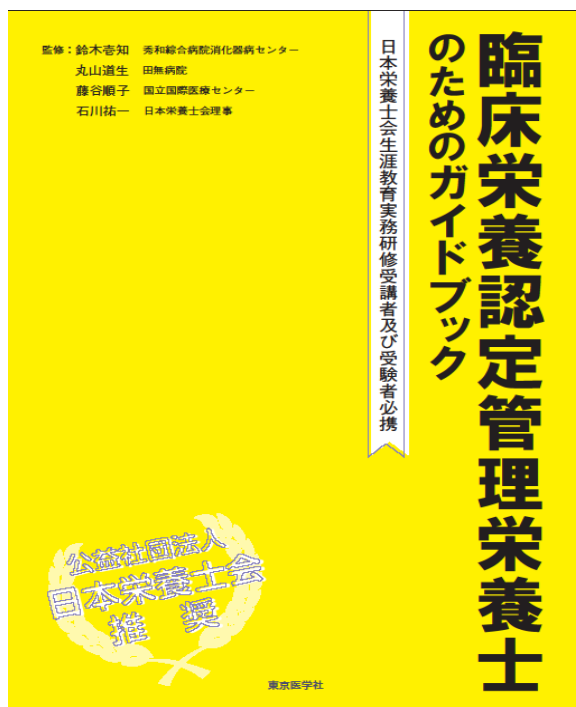
（国際医療センターリハビリテーション科診療科長）

石川 祐一（日本栄養士会理事）

値段 2,800 円（税別）

購入方法

- ① 東京医学社のホームページから直接、購入
- ② その他、日本栄養士会または各都道府県栄養士会医療事業部の研修会
（各開催地ごとに方法は異なりますので、直接お問い合わせください）
- ③ WEB での購入（アマゾンなど）
- ④ 各書店にて



（医療事業部常任企画運営委員 原純也）

学校健康教育事業部

平成 27 年度全国研修会報告、平成 28 年度事業計画案について

今年度の本事業部の研修会を振り返ってみると、昨年度から始まった基本研修・実務研修からなる生涯学習制度に合わせて、活動内容が全国の会員に少しでも理解していただけるように、「事業部のみえる化」に心掛け、そして多くの会員が参加しやすいように全国各地でスキルアップ研修会を開催してきました。しかし、昨年度から始まった栄養教諭免許状更新のための講習会や私たちの企画不足のためか、参加者が少なくなり、研修会が中止になったり、開催数が減ってしまったことをお詫び申し上げます。今回は、平成 27 年 11 月 28 日（土）・29 日（日）の 2 日間にわたり実施した全国研修会の内容の一部を報告します。

○「学校における食育の在り方」

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

食育調査官 濱田有希先生

- ・ 文部科学省の当面の新たな取組は、スーパー食育スクールと、食育の教科書の作成。栄養教諭だけが頑張るのではなく、学校全体で取り組み、家庭・地域を巻き込んだ食育を実践できるようにしたい。
- ・ 現状と目標の差を、栄養教諭だけでなく全職員の視点から見定め、全体計画の見直しを図るように。

○「学校給食の現状と課題」

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

学校給食調査官 齊藤るみ先生

- ・ 「衛生管理を充実させるためのステップ表」をもとに、どこが改善できていないのかを見直し、少しでも近づくよう取り組んでほしい。
- ・ 食物アレルギーを有する児童生徒がいる場合、献立名や見た目で見分けられる食品の有無がわかるような工夫をし、誤食を防ぐように。
- ・ 学校給食の食事内容の充実を。各学校の平均や傾向を把握し、実態に応じて提供量を算出し、担任と連携した配食を行うように。

○「授業ですぐに役立つ食育実践」

武庫川女子大学短期大学部幼児教育学科

講師 藤本 勇二先生

- ・ 食育実践でいちばん大切なことは給食がおいしいこと。
- ・ 栄養について知りすぎている栄養教職員が、知らなさすぎる子どもたちと学級担任に話をすることの弊害（子どもとの落差を生んでいる、教え込みになっている）を認識するように。
- ・ 食育授業のイメージを豊かなものにしてほしい。「食育は専門家の仕事」という考え方から、全

ての人が関わる食育ができると、地域に根ざし、地域を育む食育となる。

- ・ 「教え込みの食育は食べておしまいと学力はつけない」と言われる。「暮らしの学力」をつけるのが食育。子どもたちは自分で気付かないと生活を変えようとしなない。フードファシズム（食の知識の押し付け）ではなく、自らで思いを致す子どもになってほしい。
- ・ 子どもたちは食の向こう側に人を見る。その人の願いや思いに気付き、思いを致すようになるので、子どもの問いに答えられる大人が必要。

○「食物アレルギーの多様性」

株式会社ヤクルト本社中央研究所安全性研究所

所長 小林稔秀 様

- ・ 免疫は疫病から免れると書く。
- ・ アレルギーは現代病とも言われ、アレルギー患者の増加はライフスタイルの欧米化と関連している。（根拠はアレルギーに関する疫学調査）
- ・ 環境が清潔すぎるとアレルギーが増える。
- ・ 腸内フローラ、乳酸桿菌ビフィズス菌の多い子の方が健康な子が多い。アレルギーでない子も多い。

*平成 28 年度事業計画案

① 学校健康教育リーダー研修会

平成 28 年 11 月 25 日（金） 東京都

② 学校健康教育全国研修会

平成 28 年 11 月 26 日（土）、27 日（日） 東京都

③ スキルアップ研修会

I 生化学、生理学、臨床栄養学を中心に

講師：小野章史

島根県会場

7 月 23 日、24 日 会場未定

宮崎県会場

7 月 30 日、31 日 南九州大学

岩手県会場

8 月 6 日、7 日 エスポワールいわて

東京都会場

8 月 20 日、21 日 武蔵野栄養士専門学校

福岡県会場

9 月 17 日、18 日 ナースプラザ福岡

II 「学校給食摂取基準」、「食品構成の考え方」、「個別対応について」「子どもの栄養食事指導・支援プログラム」の活用・演習などについての研修会

III 「プレゼンテーション」、「学校における食育の評価」、「スポーツ栄養」などについての研修会

④ 「子どもの栄養食事指導・支援プログラム」ワーキング会議

本事業部では、平成 22 年度に全国の学校

給食の栄養教諭・学校栄養職員を対象に個別指導の取組状況と食事摂取基準の活用についての調査を実施しました。その結果、「食事摂取基準についての理解はできたがその運用方法が確立されていない」「科学的根拠に基づいた個別指導の仕方が確立されていない」という課題があることが分かりました。そこで栄養の指導及び管理を一体化し、日常業務の効率化を図るための検討委員会として、平成 23

年度にワーキンググループを立ち上げました。平成 25 年度から本プログラム関連のスキルアップ研修会を開催してきました。今年度は、平成 22 年度に実施した「個別指導の取組状況と食事摂取基準の活用について」の調査を再度、実施し、本事業部で取り組んできたことの検証を行う予定でいます。

(学校健康教育事業部企画運営委員長 柵木嘉和)

勤労者支援事業部

今年度の取組みについて

平成 27 年度は 4 回の企画運営委員会を計画し実施してまいりました。今年度の事業計画の具体案を詰めることを中心に進める中、当事業部の将来構想についても議論を続けているところです。

勤労者栄養分野における管理栄養士将来ビジョン（案）

日本で生活する人々を健康にする社会の実現に貢献する

基本理念（こうあるべき）

- 健康日本21（第2次）に基づき
健康な勤労者を増加させ、健康寿命延伸を推進する

基本方針（進むべき方向）

- 未病及び生活習慣病対策の推進
- 給食ビジネスの構築・確立

管理栄養士・栄養士ビジョン -概念図（案）-

生活者に優しく医療費削減に繋がる
給食ビジネスの確立・創造

専門職としての課題

- 安全で安心な食品の製造や食品の流通整備
- 健康増進となる食環境整備、食マーケティングの分析
- 社会、業務の中での専門性理解の推進
- 食品表示・情報の認知推進
- 企業への健康教育推進
- 職種別健康食育モデル構築
- 新たな食ビジネス、職種の認知・確立

地域・消費者
（ニーズ）

外食・中食・食品メーカー・企業・医療・福祉
との連携による食を通じた
健康増進のしくみづくり

学術・研究
（産学連携）

この将来構想に向けて、まずは全国ネットワークを構築することから進めました。地域別に 7 つのブロックに区分、各ブロックにはリーダーを選任しています。さらにブロック別に当事業部会員のメーリングリストを整理しはじめ、まだ完全ではありませんがこのメーリングリストをもとに会員に早く多くの情報発信をしたいと考えています。

事業としては、すでに前号の礎や HP でも報告していますが、昨年 6 月 21 日、大阪にて勤労者支援事業部ネットワーク会議を開催、また生涯教育研修会は同日大阪にて 1 回、10 月 24 日に東京にて 1 回実施しました。



移動新幹線内で委員打合せ



6/21 研修会



10/24 研修会

今年度は 3/13 に第 4 回企画運営委員会が予定されており、ここでは今年度の課題をもとに来年度の事業計画を立てていく予定です。

今、事業部で考えていること

冒頭にお示した将来構想をはじめ、日本栄養士会の中で今後事業をどのように進めていくか、國分委員長の下、8 名の企画運営委員を中心に日本栄養士会内の先生方や事務局の方々とまさに試行錯誤しながら議論を進めています。

勤労者に対する生活習慣病予防・重症化対策はますますニーズが高まっています。管理栄養士・栄養士、会員一人一人がご自身のフィールドで社会的な貢献を実現するために、当事業部ではどのようなことを取り組めば良いのか、日本栄養士会に提言をしながら、来年度も進めてまいります。事業部会員の皆様と一緒に仲間を増やしながら、さらに価値ある会を目指していきます。

（勤労者支援事業部企画運営委員 佐藤愛香）

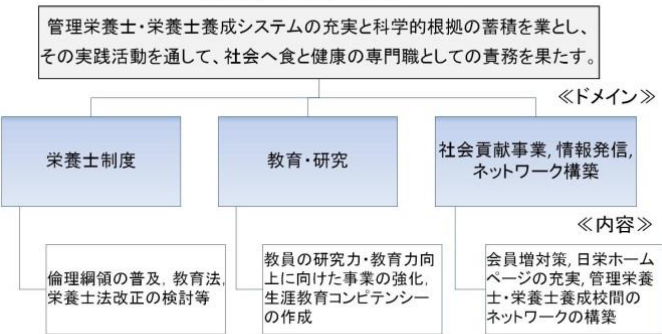
研究教育事業部

研究教育事業部の課題と今後の活動計画

課題

研究教育事業部企画運営委員会では、ここ数年、活動のビジョン、ドメイン、内容を図1のように定め、全国研修、リーダー研修、ブロック研修に、これらの内容を取り入れてきました。しかしながら、ここ数年の研修を振り返った結果、全国研修は、参加者が少なくなっているのが実状です。さらには、全国研修、リーダー研修、ブロック研修の位置づけや目標が曖昧であったため、それぞれの研修に一貫性がなく、情報の共有化が図られていないことがわかりました。また、各事業部の活動予算の基本は、会員数×@700円(上限)+研修会等の収入ですが、当事業部の27年度会員は2,554人(全会員数の5%)であり、7事業部の中では2番目に少ないため、基本予算あるいは予算獲得を見据えての活動が求められています。

【図1】 研究教育事業部の活動《ビジョン》



今後の活動計画

課題を踏まえ、企画運営委員会において、今後の活動について、整理をいたしました(図2)。

《全国研修及びリーダー研修》

従来、全国研修とリーダー研修は、別の位置づけと捉えていましたが、今後は、リーダー研修は、全国研修のステップアップ研修のような位置づけとし、全国研修の内容をさらに深め、リーダーの方々には、ブロックへの伝達を確実に行っていただければと考えています。

《ブロック研修(ブロック会議)》

従来、ブロック研修は、ブロックによってそれぞれ異なる内容でしたが、今後は、研修の一部に、リーダー研修会の内容をリーダーから伝達する時間を設けていただければと考えています。ブロック研修ができない場合は、代表者同士の会議(ブロック会議)の中で、情報共有を行っていただければと考

えています。

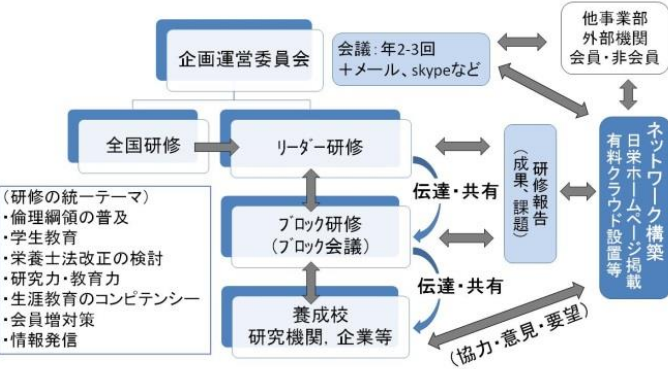
《成果、課題の報告・発信》

従来、それぞれの研修は、参加者数や予算等の報告のみでしたが、今後は、研修成果や課題についてもご報告いただき、その内容をホームページ等で発信したいと考えています。

《ネットワークの構築》

現在、日本栄養士会では、管理栄養士、栄養士の社会的認知を獲得するため、ホームページのリニューアルを進めています。リニューアルの完成までは、あと3年かかりますが、当事業部としても、教育、研究、社会貢献に向け、種々の情報発信が必要となります。将来的には有料クラウドなども導入し、会議の効率化、会員間の意見交換等ができるようなシステム構築を検討していきたいと考えています。

【図2】 研究教育事業部の活動を展開するための方法(案)



《28・29年度事業の目標》

事業の目標及び評価指標について、現時点で考えている内容です。

事業内容	目 標	評価指標
企画委員会	当事業部のビジョンを達成	
全国研修	する	
リーダー研修 (全国研修とテーマの統一を図り、内容を深める)	リーダーとしての意識を高める	リーダーの活動内容
ブロック研修 (ブロック会議)	リーダー研修会の内容を、ブロックへ伝える。会員からの意見を聴取する。	聴取した意見
HP 充実	内容の充実を図る	アクセス数
会員増対策	新卒会員を増やす	会員数

なお今後は、全国研修やリーダー研修の開催については、学会との連携を念頭に置き検討したいと考えていますが、28年度は、可能であれば、日本栄養改善学会の後に開催される「栄養教育学会」(青森)と連携し、研究教育事業部の活動について、多くの方々と議論をさせていただければと考えています。今後とも、皆様のお力添えを頂戴できれば幸いです。

(研究教育事業部企画運営委員長 斎藤トシ子)

公衆衛生事業部

平成 27 年度公衆衛生事業部全国新任者研修会

●平成 27 年度の新任者研修の 3 つのねらい

平成 28 年 1 月 28 日・29 日新任期の行政栄養士 86 人が参加し、公衆衛生事業部全国新任者研修会を開催しました。職能団体である日本栄養士会公衆衛生事業部の新任者研修の目的は、3 つあります。1 つは行政栄養士であることから、全体の奉仕者であり対象は住民であることを基本におく視点を学ぶこと。2 つ目は社会が大きく変わる中で国の政策を理解し活かし、公衆栄養・公衆衛生の視点から地域を見て成果が見える栄養政策を行うことを学ぶこと。3 つ目は、この研修会を通じて仲間づくりをしてほしいということです。

●新任者研修会の企画

新任期（5 年未満）の行政栄養士に求められるコンピテンシーには地域の社会資源の理解、地区データの選択収集、組織の役割・自分の役割の理解、自治体の政策と業務の関わりの理解、調査・研修への参加によるスキル向上などがあります。そのため、研修会の企画で重要となるのが、活動事例を通して学ぶことです。活動事例集を通じて集められた各都道府県の先進的な取り組みの中から、ぜひ新任期の行政栄養士の方々に知ってほしいという内容を約 1 年前から選定し、事例発表につなげています。

本年度は、地域の健康課題の解決に向け、どのような取り組みがなされているのか、地域の様々な機関と連携協力してこそ得られた成果や、自治体内の行政栄養士らが協力し成果を生み出している事例など大変盛りだくさんなものとなりました。

●多くの学びを得た研修内容

厚生労働省健康局健康課栄養指導室担当官 芳賀めぐみ氏からは「健康日本 21（第二次）の推進と栄養施策の動向について」の講演をいただき、地域の栄養改善について、成果をあげるために、どう計画を推進し、健康日本 21（第二次）の目標の実効性を高めていくのかを考え学ぶ機会となりました。栄養指導室 斉藤あき氏からは「成果の見える栄養施策と自分の姿、5 年後、10 年後の自分の姿」について参加者に近い立場から仕事を通じたキャリア形成について講話をいただきました。

次に、「地域に暮らす人々の健康・栄養・食をマネジメントするための視点について～地域の栄養・食生活を担う行政栄養士として～」をテーマに女子栄養大学院教授 武見ゆかり氏から講演をいただきました。この中で、次の重要な 3 つの視点を学びました。①行政栄養士の業務指針をふまえ効果をあげる

ために地域をどうみていくか。地域の人々の観察も含めて具体的に考える。②ハイリクスアプローチはたくさんあるがポピレーションアプローチは具体的にどうしたらよいのか。効果的な方策を理解する。③社会全体や国の政策の動向を踏まえ、地域における栄養活動を考える視点を理解する。

山形県立米沢栄養大学教授 笠原賀子氏からは、事例発表に先がけて「日本栄養士会雑誌活動最前線からみえる管理栄養士・栄養士の成果を見せるために」として PDCA サイクルを意識し、客観的に伝えることについて講話をいただきました。

続いて、以下の 4 事例を通じて貴重な学びを得ました。①乳幼児食事相談の主訴別支援チャート～発達に支援が必要な乳幼児の食課題に対する支援策チャート～（8 月号*）奈良県大和郡山市保健センター 野原潤子氏②視て、食べて、確認「適量ランチ会」～特定保健指導における栄養・食生支援～（10 月号*）群馬県前橋市健康部国民健康保険課保健指導室 岡田智子氏③栄養管理連携パスの構築～医療から介護まで一貫した栄養管理を目指して～（5 月号*）兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所 諸岡歩氏④健康・栄養課題を解決するために、地区組織との協働～信州 ACE プロジェクトの推進～「特集：健康長寿日本一の秘訣を探る」（6 月号*）長野県北信保健福祉事務所健康づくり支援課 小林ゆかり氏

講師としてご協力くださいました先生方、事例発表者の皆様には、心より感謝申し上げます。



5 年後、10 年後の行政栄養士としての自分の姿を考え、研修の成果を業務にどう活かすかをグループで話し合いました。

* 公益社団法人日本栄養士会：「日本栄養士会雑誌」第 58 巻 2015 年各号に掲載

（公衆衛生事業部企画運営委員 堀 寛恵）

地域活動事業部

都道府県栄養士会事業を担う地域活動事業部会員の活動報告

市民公開セミナーの運営にかかわって

新潟県栄養士会は、平成 24 年 9 月に公益社団法人移行記念事業として「一般市民公開セミナー」を開催しました。その後様々な団体の後援により、年 1 回公開講演会を開催しています。地域の市民にいちばん近い栄養士ということで、この事業の企画・運営を初回より地域活動栄養士が担っています。一般の方がメインの講演会は県栄養士会でも初めてのことで春に始まった運営会議は、チラシの作成から始まりました。わかりやすく、申し込み易いことに重点を置いて作りました。次はいかにチラシを多くの方に手に取ってもらえるかを考えてどこに配布するかです。公民館等の公共機関、大学や専門学校に配置をお願いしました。地元テレビ局、ラジオ局に告知出演したり、新聞社に取り上げてもらったりもしました。おかげさまで毎年定員を上回る応募があります。

開催当日は、多くの方が開場前から並んでくださり関心の高さを感じます。スムーズかつ公平な受付、会場案内に心を配りました。対象者も様々で、高齢の方が多いたのが栄養士だけの研修会とは違うところです。

これまでの講演会の内容は、順天堂大学の白澤卓二先生の「100 歳までボケない食事の方法」、料理研究家の村上祥子先生の「野菜を手軽に摂る料理法」、日本大学の松本恵先生の「ソチオリンピックのマルチサポートセンターでの選手の食事」、順天堂大学の高橋徳江先生の「食事と脳の関係」、とすべてタイムリーな内容であり、市民にとっても我々栄養士にとっても大変興味深い内容でした。

この体験を通して、いろいろな方のニーズをすくい上げ、それに沿った研鑽、活動をすることが地域活動の栄養士の使命と改めて感じました。そして地域活動事業部会員の行動力を県栄養士会に示すことができました。今後も積極的に係わっていきたいと思います。



健康増進キャンペーン
(新潟県栄養士会地域活動事業部 丸山成子)

日本栄養士会委託事業「メタボリックシンドローム予防のための健康セミナー」

期 日 平成 27 年 11 月 3 日 (火)
会 場 千葉商工会議所 第 1 ホール
参加者 栄養士・管理栄養士 105 名、その他 7 名

A 講演：

○「脂質異常症の最近の話題～LDL コレステロール治療の重要性～」

女子栄養大学教授 田中明先生

○「特定保健用食品の有効的な使い方」

花王(株)ヘルスケア食品研究所 吉本弥生先生

B 講演：

○「メタボリックシンドローム予防のための効果的な栄養指導の在り方」

大手前栄養学院専門学校教授 山本國夫先生

「脂質異常症の最近の話題」では、コレステロールや中性脂肪の代謝と動脈硬化への関与、メタボリックシンドロームと動脈硬化リスクについてなど、「メタボリックシンドローム予防のための効果的な栄養指導の在り方」では、禁止事項を列挙する引き算の指導ではなく、足し算の指導も取り入れ、次につながるプロフェッショナルな指導をする、との両先生の言葉が、心に残りました。また、「特定保健用食品の有効的な使い方」としてカテキン・クロロゲン酸類について、花王(株)様からの説明により商品の理解が深まりました。生活習慣病予防の実践活動をする有用な内容を身近で聴くことができ、参加者にも大変好評でした。

セミナー告知は、次のように実施しました。

- ・千葉県栄養士会会報発送時に開催案内を同封
- ・千葉市保健所管内の研修会で開催案内を配布
- ・千葉県栄養士会のホームページに掲載
- ・日本栄養士会雑誌 10 月号の研修会案内に掲載

協賛企業の花王株式会社様のご協力いただき、多くの参加で有意義な研修会となりました。



セミナー風景
(千葉県栄養士会地域活動事業部 海老原昌子)

福祉事業部

ファーストステップ研修会を受講して

はじめに、福祉事業部が開催している第 20 回専門研修会において「日本人の食事摂取基準（2015 年版）」を学びたいと思いました。専門研修会はファーストステップ研修の受講が必須条件でしたので、平成 27 年度京浜ブロックファーストステップ研修会（基礎講座 1 日、演習 1 泊 2 日）を受講し、福祉栄養士のなかまで議論をし、発表、討議と、今まで経験したことのない研修会内容でしたので報告します。今実施している栄養ケア・マネジメントの考え方が変わります。

◆1 日目（基礎講座）10：00～17：00

基礎講座では、「24 時間シート」と「ICF：国際生活機能分類」から「施設サービス計画」を作成する、栄養ケア・マネジメントの考え方について学びました。

24 時間シート：日課ではなく、その人がどのように暮らしたいのか、特に食事、食生活に関して詳しく記載する。

ICF シート：自立や自己実現に向かううえで、身体面、精神面においてどのような障害があり、その障害によりできなくなっていることに対して、何をサポートすればできるようになるのか。

施設サービス計画書（食事、栄養）：その人の生活、人生を尊重し、できる限り自立した生活を送れるように支援するために、①食事、食生活の質の向上、②疾病の改善と重症化予防、③健康の維持増進について目標を設定する。

相手の話を理解できるまでよく聞き、観察して、真のニーズを感じ取り、潜在している課題を考える力を身につけること。体重変化だけではなく、食事をすることに関するすべての生活行為をプランに取り入れること。

そしてケアプランは利用者やその家族の自己決定の意志が盛り込まれ、ライフスタイルの方向性を文章によって明確に示され、第三者がその人の人物像や状況を思い描けるように、具体的に表現すること。など、ケアプラン作成のためのポイントをご説明いただきました。

◆演習 1 日目（事例検討）

5～6 名の班に分かれ、各自持参した事例を班ごとに報告した後、翌日の発表に使用する事例をひとつ

選出しました。ディナーミーティングのあとは、その事例の「基本情報・24 時間シート・ICF シート・施設サービス計画書」と発表のための事例内容（経口維持を含めた）を盛り込んだカンファレンスのシナリオを、全員で意見を出しあいながら朝までかかり作成しました。

◆演習 2 日目（発表と討議）

発表は各班全員で行い、発表後に次の発表班全員の方と質疑応答を行い、さらに会場からも意見を頂き全体討議を行いました。夜を徹して話し合ったはずなのに確認不足があったり、大事なことを見落としていたり、間違っていた情報など、多くのことに気づかされました。施設では管理栄養士は一人のため、他の管理栄養士からの意見を頂き議論するという経験は初めてでした。色々な方向から見ることで、考えることの重要性和、相手に明瞭完結に伝える話し方の難しさを痛感し、さらに技術を磨かなくてはならないと実感しました。

◆日々の業務に生かす（ICF の視点を取り入れる）

受講後、学んだ内容を日々の業務に取り入れるため、「問題解決型」から「提案型」プランへ切り替えることにしました。利用者と関わる時間を増やし、利用者一人一人の「食べる」というすべての生活行為についてよく観察し、個々の状態に応じ、生活の場である福祉施設においてその人らしく生活していくために何ができるのか、それぞれのニーズを探っていく視点で「施設サービス計画」の見直しに組み始めています。

◆おわりに

平成 27 年 4 月の介護保険制度の改正で、「経口維持加算」の算定要件が緩和されました。平成 27 年度より、このファーストステップ研修も経口維持の内容が加わりました。「口から食べることを支援するために正しい知識と必要なスキルをしっかりと身につけ、専門性を高めることが求められており、それにはこのファーストステップ研修は必須の研修だと感じました。多くの福祉施設で「経口維持加算」の実績が上がることは、質の高い栄養ケア・マネジメントが実践され、ご利用者、ご家族に喜ばれ、信頼される管理栄養士が増えると思います。最後に、一緒に研修会で議論を交わした仲間とのつながりを大切に、次の専門研修会を受講し、さらにステップアップしていきたいと思っています。

（特別養護老人ホーム恒道園 岩田雅美）

栄養士賠償責任保険ってなに？

公益社団法人日本栄養士会が契約者となり、会員の皆様が被保険者（保険の補償を受けられる方）となる、団体契約保険です。補償内容は、日本国内で管理栄養士・栄養士として行う業務の結果、ご契約期間（保険期間）中に他人の身体や財物に損害を与えたことにより、負担される法律上の損害賠償責任を補償する保険です。

また、さまざまなリスクを包括的にカバーする総合補償制度もありますので、日本栄養士会雑誌3月号に同封いたしました「栄養士総合保障制度のご案内」をご覧ください。引受保険会社または取扱代理店までお問い合わせください。（平成28年度のご案内につきましては、4月中にホームページでもお知らせいたします。）

※ 栄養士総合補償制度（上乗せ補償制度）は自動継続ではありません。**平成27年度加入されていた方もあらためて加入手続きをしていただく必要があります**ので、ご注意ください。

問い合わせ先

引受保険会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL 03-3593-6824

取扱代理店 株式会社エヌシーアイ TEL 03-3426-7757

*万一事故が発生したときは、ただちに引受保険会社または取扱代理店まで連絡してください。

会員限定ページには、会員の役に立つ情報が掲載されています。是非、定期的に関覧いただきますようお願いします。

会員限定ページ

ユーザー名 (eiyoushikai) パスワード (jda2011)

会報 栄養日本・礎

Vol.5, No.4

発行 / 平成28年3月29日

発行所 / 公益社団法人 日本栄養士会

編集責任 / 公益社団法人 日本栄養士会

〒105-0004

東京都港区新橋5-13-5 新橋M CV ビル6 階

TEL 03-5425-6555 FAX 03-5425-6554

<http://www.dietitian.or.jp/>